

静かに語りたいと心から思う。急がず自転のリズムに乗り、波のリズムに乗って。永く続くこの星の足どりを感じながら。それでも、わたしは一人の人間として急がざるえなとも思う。急ぐ。この国、この世界から苦しみ、嘆き、悲しみが無くなることを望まなくてはいけないと思うのです。一刻と未来が蝕まれていく状況と、いつ何時に最悪の事態が牙をむくかもしれない現実が目の前に有る。一人の人間として、歩かなければいけない道が目の前にある。わたしは勇気を持ち、歩みたい。

わたしは東北のある農場で二間半×一間半の小屋を建てて暮らした事がある。電気、ガスも水道もなかった。つまり水洗のトイレも、流し台にガス台、風呂もないという事です。灯りはランプ、料理は薪ストーブ、買ひ物も殆どせず、幼稚園と連絡をとるために携帯電話は持ち車で充電していた。娘はわたしの玄米の弁当を持ち通学した。

冬、小屋は雪に埋もれた。発泡スチロールの断熱の小さな小屋は冷たい箱となる。朝、娘が寒くて泣いた。目を覚ますと同時に泣き始めた。そんな日は水を溜めている一升瓶が凍り割れた。何でもないような一つつが大変な作業だった。冬は畑から採れる物はなく、薪も秋までに用意したものを少して使っていく。細々と暮らした。

夜、小屋を暖めるより、床に早く就くようになつた。七時頃に布団に潜り込むのみ、子供と同じほど寝た。そんな中で分かったことがある、食べる量が少ないと、寒いという事だ。そしてそれは多くの作物の力、命の力を取り込み自己発電をしている物体がこの体なのだということだ。

断食をした人ならば分かると思います、決して食べるという方法が命を維持する唯一の方法ではないようです。森美智代さんの一三年間、青汁のみで過ごされている話は有名です。これは極端な例になつてしましますが、この事実には驚かされました。

「ロロ」は食を食べまじょう。カロリーは何カロリー必要。」と、原子力発電は安全です。「は、わたしには同じように感じられてなりません。

食べるのが食べ過ぎという話ではなく、基本的に人は食べるために労働をしている訳ですから、その部分からも新しい選択ができるのではないのでしょうか。思っている以上に可能性に満ちているという事です。必要以上にもものを作り、消費していったのかもしれませんが。人から社会が離れて行ってしまうのかもしれませんが。

生命は自らエネルギーをつくる存在のようです。エネルギーは在るもののようにです。この星も実はエネルギーに満ちていたと多くの人が解り始めています。つまりそれは争わなくともエネルギーは満ちています。

とです。何処からか運んだり、分けたりしなくてもよいという事です。

実はフリーエネルギー発電も研究されていて、過去に何度と発表されてきているらしいのです。永久にエネルギーを生み出すシステムです。想像力が大切です。発電され続け、電気が常に有る状態です。誰かのものでなく、それぞれの場所にそれが有る状態です。夢の話ではなく、実演もされたという事です。人を含めた宇宙に人智が少しだけ近寄ったのかもしれませんが。

戦争。これはある意味、戦争です。

犠牲者は未来を生きる人です。勝ち、負けは無く、皆で新しい扉を開く道しかないのかもしれませんが。個人の利は結果的に争う構造の社会になつてのだから、行動とものもこのようになる思いを他の為に生き始めた時、新しい時代が始まるとおもいます。言葉で言うのは簡単ですが、実際にその中に生きるのは困難かもしれません。それでも、わたしは思います、目には見えませんが本心に少しづつ、気が付き始めています。変わり始めています。わたしにとっても本心に大きな大きな課題です。勇気を持ち、誠意を持ちこの道を頭を下げ歩いて行きたいと思つています。

もつと今までのとは違う価値を基準にして、人として生きる時代にさしかかっていると思わずにはいられません。新しい時代の扉が目の前にあります。